今年も残り少なくなりました。新年を迎えるご準備でさぞかしご多忙のことと拝察いたします

十字御書に

「正月の一日は日のはしめ月の始めとしのはじめ春の始め・此れをもてなす人は月の西より東をさしてみつがごとく・日の東より西へわたりてあきらかなるがごとく・とくもまさり人にもあいせられ候なり」とあります。まことに迎春（げいしゅん）のことばとして、ありがたいご聖文であります。

仏法では、日々夜々（ひびよよ）に生まれ日々夜々に死すると申します。きょう一日だけの命と考えて、すべてを処理するというのが、仏法の教えであります。

日蓮大聖人様の四条金吾殿御返事に

「すぎし存命不思議とおもはせ給へ」と、いうおことばがあります。

毎日ではたまりませんが、一日だけならなんでもできるという考えかたがあります。

一生やるのだと思うと考えてしまいますが、一日だけなら出来ない事はありません。

正月の一日だけなら大いに信心もできます。

いつも此の一日のみと心がける。そう考えてみますと、毎日が元旦であれば、怒

ることも慎み、信心もでき、えがおもおのずから湧いてまいります。

まことに春風駘蕩たる態度を持することが出来ると思うのであります。日々夜々に生まれ日々夜々に死する毎日・この元旦に、幸せを築ける道理を、説かれた仏様もとで発心を起こし、一年の計・誓願を建てる意義は誠に深いものであります。

世間では「一年の計は元旦にあり」と言い、縁起の良い処なら何処でもいいから元旦に、今年一年間の幸せを願えれば良いと思っている人が居ります。

これは大きな間違いであります。ただ、縁起が良いから、利益が有るからだけでは、幸せを築いて行くことは、出来るはずがないのであります。

『義浄房御書』に、六六九

「寿量品の自我偈に云はく『一心に仏を見たてまつらんと欲して自ら身命を惜しまず』云云。日蓮が己心の仏果を此の文に依って顕はすなり。其の故は寿量品の事の一念三千の三大秘法を成就せる事此の経文なり、秘すべし秘すべし（中略）日蓮云はく、一とは妙なり、心とは法なり、欲とは蓮なり、見とは華なり、仏とは経なり。此の五字を弘通せんには不自惜身命是なり」（御書 六六九頁）と、

仰せのように、その経文は寿量品の文底に秘沈されている久遠元初の本仏の仏因・仏果の行相と三大秘法を成就された意義を説き顕す御指南であります。

大聖人は「一心欲見仏　不自惜身命」の御精神に立たれ、法華経に予証されるあらゆる難を一身に受けられて法華経の文々句々を身読（しんどく）実証し、三大秘法を建立されました。

その三大秘法の当体は同抄に、

「一とは妙なり、心とは法なり、欲とは蓮なり、見とは華なり、仏とは経なり」

と、「一心欲見仏　不自惜身命」は、久遠元初の本仏の実修・実証を顕す経文であり、その「一心」は本仏大聖人の一念、南無妙法蓮華経であることを説いています。

仏道を成就するためには能化の仏と同様、私たち所化にも命がけの信心修行が、肝要であるということです。

第二十六世日寛上人は『依義判文抄』に、

「初めの二句の中に『一心欲見仏』とは即ち是れ信心なり。『不自惜身命』とは即ち是れ唱題の修行なり、此れに自行化他有り、俱に是れ唱題なり」（六巻抄　九九頁）

と仰せのように、「一心欲見仏」を信心に、「不自惜身命」を唱題に約され、自ら唱題に励み、他にも勧めていく、一心に仏を見たてまつらんとして南無妙法蓮華経と唱える信心と、身・命・財を惜しまぬ修行によって仏道は叶えられるのです。

すなわち、仏様に護られ、私達が幸せになる為には、今、私たちの信心修行における　「一心欲見仏　不自惜身命」　まさに唱題に励むことであります。

この御指南を肝に銘じ、年末のこころがまえとして今年度の運・不運、すべて罪障消滅いたし、善知識と捉えご精進いたしましょう。

どうぞ、お健やかにお正月をお迎えくださいますようお祈り申し上げます。

興教寺住職

中　嶋　廣　圓